

G I Sに関する高度利用の動向調査・検討作業

実施期間 平成15年度
企画部 専門調査官 常澄 治義
地理情報システム推進室 小荒井 衛

1. はじめに

G I Sは、行政サービスの向上、新しいビジネスモデルの創造などを通じて、豊かな国民生活を実現させるものとして役割は大きく、IT 社会の中で一角を占めつつある。

地理情報システム(G I S)関係省庁連絡会議で決定された「G I Sアクションプログラム2002 - 2005」における政府の施策では、G I Sを本格的に普及させるためには、G I Sに係る様々な情報を広く国民各層に提供することが重要であるとし、G I Sに係わる政府の取り組み状況や最新の動向等について積極的な広報活動を展開するとしている。その具体的な進め方として、関係府省が連携した定期的な普及セミナー開催等、積極的な普及施策の展開を図るとしている。

また、計画のフォローアップ等では毎年度、G I Sの普及状況、G I Sに関する技術動向、諸外国の状況等について調査を行うとしている。

このため、本調査では、G I Sの整備・利用の動向、G I Sに関する先進技術の動向及び海外における最新のG I Sに関する動向の調査を行い、G I Sに関して先駆的な地方公共団体の事例及びG I Sに関する知見を収集し、今後のG I Sの普及活動をより一層充実させる施策に資することを目的として実施したものである。

2. 調査内容

G I Sに関する整備・利用の動向、G I Sに関する先進技術の動向及び海外におけるG I Sに関する動向について、先進的にG I Sに取り組んでいる地方公共団体おいてのヒアリング、インターネットでの検索、資料等により調査し集約した。

3. 平成15年度の実施内容

本調査作業の実施内容は次のとおりである。

(1) G I Sに関する整備・利用の動向

G I Sを先進的に整備・利用している地方公共団体及び他の機関との連携により地図データの整備・更新等を実施している地方公共団体から、G I Sについて公表等しているそれぞれ7団体と3団体を選定し、G I S導入に関する企画から利用までの状況及び将来的な利用方法を調査して集約し、全国の地方公共団体がG I Sの導入に資するための検討を行った。

(2) GISに関する先進技術の動向

最近のGISに関する技術はGPSとGISの二つの技術を結合させて、高度なナビゲーションシステムの開発が進められるなど進歩が著しく、今後のGISの展開を大きく左右することが予想される。このため、GPS、スードライト、WebGIS、LBS、ITS、三次元GIS、航空機センシング、準天頂衛星について、インターネットでの検索及び各種資料により調査を行って取りまとめた。

(3) 海外における最新のGISに関する動向

海外におけるGISに関する最新の状況及び施策の実施状況を把握するために、9カ国の公的機関における地理情報データ及びシステムの整備、普及状況GIS関連法整備及び建設行政への利活用について、インターネットによる検索等により調査し取りまとめた。

4. 得られた成果

GISの整備・利用に踏み出せないでいる地方公共団体が、GISについて多角的に検討できる情報として、先進地方公共団体における下水道、上水道、道路、地籍、都市計画、農林、防災に関するGISと地方公共団体と民間との連携による地図データの整備・更新などについて、企画段階から利用までの状況及び将来的な利用方法等が取りまとめられた。

また、GPS、スードライト、WebGIS、LBS、ITS、三次元GIS、航空機センシング、準天頂衛星におけるGISに関する先進技術について、利用されている範囲、技術の概要、今後の利用動向及びフランス、ドイツ、オーストリア、スイス、フィンランド、オランダ、デンマーク、イタリア、オーストラリアにおけるGISの普及状況、GISに関する施策、GISの利用状況が調査されて取りまとめた。

5. 結論

総務省によると、地方公共団体における15年度のGISの普及は、個別型GISを導入している都道府県は46団体、市区町村は1,103団体で、統合型GISを導入している都道府県は7団体、市区町村では158団体となっている。GISの導入について検討中及び未検討の団体は、今後の取り組みが期待されている。

本調査ではこのような状況を踏まえ、先駆的にGISに関して取り組んでいる地方公共団体及び他の機関と連携して地図データの整備・更新を実施している地方公共団体において、企画段階からGISの利用までの状況と地方公共団体が民間とどのようにパートナーシップを築いたかを調査した。その結果、GISを導入する際の問題点の解決方法及び地図データを効率よく整備・更新している状況などが包括的に把握できた。

また、GISに関する先進技術の現在の内容、今後の利用動向や海外におけるGISに関する最新の普及状況、利用状況の動向などの成果が得られた。

この調査を通じて得られた成果等は、今後、GISの普及活動をより一層充実させるための施策等に利用していくことにしている。